

2:12 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私とともにいるときだけでなく、私がいらない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。

2:13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。

2:14 すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。

2:15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、

2:16 いのちのことばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。

2:17 たとえ私が、あなたがたの信仰の礼拝といういけにえに添えられる、注ぎのささげ物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。

2:18 同じように、あなたがたも喜んでください。私とともに喜んでください。

「救いを達成」というのは、まだ救われていないということではありません。また人間の頑張りで達成して救われるということでもありません。すでに救われているのです。例えるなら、誰にでも人生があるけれども、その人生を全うするのはまた別であるのと同じです。救われている人生を全うするという意味での「達成」です。

救いには主のものとなったという大切な面もあります。失われた銀貨のように、価値があるのにその

価値を発揮できないでいた者が、主のものとなったことによって、造られた価値を発揮できるようなるのです。それは使命を達成するということです。救いを達成するとはそのような側面があります。

私たちも救われて、立場が神の子となったというだけでは、救いを「達成」したことにはなりません。すなわち救われている人生を全うしたことにはなりません。銀貨のように使命を達成するものなのです。

救われたことにとよって与えられた使命が、自分には何であるのかをよく考えてみましょう。そえを主からのものとして受け止めましょう。そして今日の一步を踏み出しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

